



肢体不自由

肢体不自由とは

肢体とは「四肢」と「体幹」を表します。「四肢」は上肢(手と腕)と下肢(足と脚)、「体幹」は胴体を意味します。「肢体不自由」とは、四肢・体幹が病気やケガで損なわれ、永続的に日常生活において不自由や困難が生じている状態をいいます。障害の部位や程度によって個人差があります。

●分類と説明(運動機能のみ) *運動機能以外に障害を併せ有することもあります。

脳	脳性マヒ	受胎から新生児期の間は何らかの原因で受けた脳損傷の結果、姿勢・運動面に異常をきたしたものの。移動機能や手指機能の障害に幅がある。
	脳血管障害	脳血管が破れたり詰まったりすることで脳の細胞が壊れてしまう脳損傷。脳細胞が損傷を受けると筋が突っ張る痙性運動麻痺などになる。移動機能や手指機能の障害に幅がある。
	頭部外傷の後遺症	交通事故、スポーツ等による脳損傷で、筋が突っ張る痙性運動麻痺等がある。移動機能や手指機能の障害に幅がある。
脊髄・末梢神経	脊髄損傷	スポーツや交通事故等によつての脊髄損傷で、腕や足をうごかせなかったり姿勢を保てなかったりする。
	二分脊椎	胎児期による器官発生障害で、主に腰の脊椎の癒合不全によつて、下肢機能が失われる。
	シャルコー・マリー・トゥース病	遺伝性の末梢神経疾患で、手足等の末端から運動及び感覚神経の機能が障害される。
	ALS(筋萎縮性側索硬化症)	筋肉を働かせる神経機能が失われるために、動いたり、呼吸したりすることができなくなる原因不明の疾患。進行していき、要全介助で人工呼吸器使用となる。
筋	筋ジストロフィー	筋そのものが衰え萎縮していく。
骨	四肢における欠損・形成不全	先天奇形、指や腕の欠損等がある。
	変形性股関節症	股関節の軟骨がすり減つて、関節の可能域制限や、筋萎縮による筋力低下、患側下肢の短縮、それらによる跛行といった症状がみられる。
	骨形成不全症	生まれつき骨が著しくもろく、成人までに骨折が多かったりする。
	切断	事故等で四肢を切断したことがある。

肢体不自由のある人の困難さ

多くの人があたり前のように行っている行動でも、個々の状態によつて難しい場合があります。移動等に関するハード面だけでなく、それぞれの施設・設備の運用等、ソフト面においても困難さがある場合があります。

●困難の具体例

時期	内容
入学まで	(試験) 所定時間内での解答困難／鉛筆等による書字解答困難／所定の試験場所での受験困難 (移動) 試験会場までの移動手段に困難がある
学習	(授業) 紙の取り扱いが困難／ノートを取るのが困難／実習、実験等に参加しにくいことがある (試験) 筆記による解答に時間がかかる (その他) 通院時の欠席の取り扱い
環境整備	(移動) エレベーターの有無、段差などがバリアになる
就職活動	自分の力量と障害の程度と求職希望先とのマッチングが難しい 就職についての情報収集が困難である
学生生活	(生活) 食事、トイレ等の困難 (体調) 体温調節、呼吸管理、摂食、嚥下、喀痰等、体調・健康管理上の困難がある
災害時	即座に一人で避難することができない／避難情報が得にくい

障害のある教職員の困難の具体例：介助者等の外部の人々の立ち入りが禁止されているところの利用ができない 等

肢体不自由のある人への支援

障害のある部位や程度によって、支援の方法は様々です。学生本人にニーズを聴くだけでなく、どのような環境であるかを十分に説明して、場合によっては、支援の方法をこちらから提案することも必要です。また、物的資源を整えたあとでも、定期的なメンテナンスや必要に応じて見直しを検討する等、継続的に支援を検討してください。

●対応・配慮の具体例

時期	物的支援	人的支援	環境調整	その他
入学まで	筆記用具・補助具 問題・答案用紙の拡大	介助者待機 (移動支援等)	別室受験 駐車場 会場へのアクセス	健康管理上の配慮 時間延長
学習	補助機器の使用 パソコンの使用 専用机・椅子の設置 ICT 機器等の設置	介助(トイレ、実験等) ノートテイク	教室変更 受講場所(座席等)の確保	授業の達成目標を確認 ^{*1} レポート代替 時間延長 回答手段の工夫
環境整備	建物・部屋への出入りの整備 エレベーター、スロープ等の設置	介助者待機	休憩時間の確保	必要に応じて 自治体関係部局等との連携
就職活動	情報収集のための機器の 設置、貸与	必要に応じて、 企業等への個別説明	外部機関との連携 学内の就職支援担当部署と の連携 就職セミナーの情報の詳細な伝達	就職ワークショップ
学生生活	食堂等の使いやすさの工夫 休養室等の用意	トイレ介助、 移動支援等	健康診断での配慮	必要に応じて 自治体関係部局等との連携
災害時	避難用具の設置 緊急時対応マニュアル作成	避難方法の計画 避難訓練の実施	避難できる経路の確保 緊急時の連絡体制(安否確認)	学生の居住地の自治体と 災害時避難体制の連携

*1 学生に合わせた対応を工夫する

障害のある教職員への対応・配慮の具体例：外部の人々の立ち入りを禁止している施設等において、介助者等の立ち入りを認める 等

●支援のポイント

ハード面を整備する際には、ただ法令等に従うだけでなく、利用者が使いやすい状態になっているかを考えて整備してください。以下に、簡単なチェックリストを紹介します。もちろん、施設整備に必要な項目はこの限りではありませんが、学生の状態や施設の状況をふまえて対応を検討してください。

【トイレ】		【食堂、静養室、学習室など】	
<input type="checkbox"/> ドアの開閉	仕様・重量などの確認	<input type="checkbox"/> 机、椅子 利用可能な高さや奥行き	
<input type="checkbox"/> スペースの確保	車椅子の回転、便座への移乗、 介助行為のための空間	<input type="checkbox"/> シミュレーション セルフサービス等、利用可能かの確認	
<input type="checkbox"/> バリア	掃除用具等でバリアを作らない	<input type="checkbox"/> 支援者 必要に応じて周辺の職員や学生が支援	
<input type="checkbox"/> 目的トイレ	多様な利用者の想定	<input type="checkbox"/> 設置機器 情報処理室の床上コード配線、プリンタ・パソコンの入出力等	

ハード面の整備は、法令等もあり比較的分かりやすいものですが、一方で、利用する人の使い勝手を考えずに整備してしまいがちです。法令に従うことは最低限のルールとして考え、実際の利用者を想定した整備を心がけていただきたいと思います。仕様や規格の検討、また予算的な都合がある場合もあるかと思しますので、当支援室までお気軽にご相談ください。

また、九州大学の広大なキャンパスにおいては、車椅子利用者などの移動には大きな困難があります。ただキャンパスが広いということだけでなく、休み時間という制限された時間の中で多くの学生や教職員が移動する環境は、場合によっては危険を伴います。特に、自転車の通行・駐輪のマナーは改善すべき課題のひとつだと考えています。

アビリティ

イスバス

障害者スポーツでも花形のスポーツである、「障害者が車いすで行うバスケットボール」。日本では、「イスバス」という愛称だそうです。上半身で車椅子を動かし、ボールも操るため、選手の上半身は非常に発達している。片輪を浮かすティルティングやピック&ロールによる華麗なプレーなど通常のバスケットボールとは違った面白さもある!

関連情報の入手先

あいあいセンター 福岡市中心身障がい福祉センター

www.fc-jigyoudan.org/aiai/index.html